令和元年度熊本市人権教育・啓発基本計画推進会議で出された意見

1. ヒューマンライツシアター（人権映画会）で都心部から離れたところでの啓発は重要だが、キャパに対し参加が少ないことについて分析し今後の対応を、という意見について。

- ★冬休み期間中での開催ということで、親子で見られるディズニーアニメが随所に取り入れられているドキュメント映画であったが、ここまで参加が少ないとは思っていなかった。
- ★映画会はどれくらいの規模、会場で開催されているのかについて。 → 東区 290 人、西区 480 人、北区 600 人、南区 400 人、中央区 370 人の規模の会場で上映を計画
- ★令和元年度は開催時期や、上映時間や曜日等を見直すとともに、効果的な広報の仕方の検討を行う。

上記の意見に関連し、令和元年度（2019 年度）に実施している施策・事業

資料 2

	定員	実績
20-06	北区人権映画会 600 人	《139 人》 → 11 月 24 日（日）開催。14:00 から上映（日曜日）
20-07	南区人権映画会 400 人	《 79 人》 → 12 月 26 日（木）開催 14:00 から上映（冬休み開催）
06-04	中央区人権映画会 370 人	《78 人》 → 2 月 3 日（月）開催。19:00 から上映（平日夜間開催）

※上記映画会については、冬休み、日曜日及び平日夜間の開催などの工夫を行ったところである。そのほか夏休み、健軍文化ホール（定員 290 名）で開催予定であった映画会は、満席キャンセル待ちが出る状況であったが残念ながら台風の影響により中止となった。

広報については、市政だより、市ホームページ、人権協ホームページに掲載するほか、市政ラジオ番組での周知やチラシ 5,000 枚を作り、人権協会員、小中学校、各まちづくりセンターや公民館、各支所等を通じて広報している。

2. なぜ、児童相談所や警察等の行政が救えない家庭内暴力事例が起きるのか、その背景を考えるセミナーを開くことも大切だと思う。また、虐待の報告数は上昇しているのか。

★オレンジリボンサポーター養成講習会は、児童虐待防止の啓発活動の一環として開催している。相談窓口の通告の仕方などのほか、児童虐待を取り巻く背景（現代の子育てにまつわる情報、愛着形成など親子関係の基礎について、虐待の連鎖等）について講習を実施している。

★面前DVの増加により警察からの通告数が増えている。全国的にも痛ましい事件も増えている。

★児童相談所を含めた体制の強化を検討し虐待の未然防止に向けて取り組んでいく。

上記の意見に関連し、令和元年度（2019年度）に実施している施策・事業

資料2

02-01 相談に該当する施策・事業

→ 子ども・若者に関するワンストップの総合相談窓口として、情報の提供及び助言を行い、必要に応じ支援機関に繋ぐ。

02-02 オレンジリボンキャンペーン

→ 妊娠中や子育て中の親子及び子どもを見守る大人、また近い将来親になる若者たちを対象に、児童虐待防止に関心をもってもらい、相談窓口や通告窓口を周知するとともに、自分にできることは何かを考え、ためらわず行動する契機となるよう啓発する。

02-03 人権教育・啓発（周知・広報含む）に該当する施策・事業：セミナーの開催

3. こころの健康センターのLGBT相談体制とセンターの存在のPRについて。

- ★本市には、性的マイノリティ専門の相談機関はなく、各部署がそれぞれの役割のもとで対応しているところ。
- ★センターでは、性別違和等LGBTを背景とした心の悩みについての相談に応じているところである。
- ★性的マイノリティに関するリーフレットやサポートハンドブックなどに相談窓口として掲載しているが、相談が可能であるということを、さらに周知できるよう、関係各課と協力していきたい。

上記の意見に関連し、令和元年度（2019年度）に実施している施策・事業

資料2

07-01 精神保健福祉相談 → 性別違和等LGBTのこころの悩みに関して、精神保健福祉相談における電話相談・来所相談を実施するとともに、情報提供を行う。

07-04 性的マイノリティに関する事業 → 性的マイノリティの人権の保護、市民や事業者等の理解促進。

※熊本市パートナーシップ宣誓制度の開始（H31.4.1～）

市職員研修の実施（NPO法人かア古チェンジラボ 三浦暢久氏）

市民・地域団体・企業向け「LGBTの基礎知識に関する出前講座の実施」

性的マイノリティに関する取組の一覧表を市ホームページに掲載

4. 発達障がいのある年長園児の就学に関する相談窓口について、働く保護者も増え、土曜日、日曜日の開催は無理でしょうか。

★年長園児の相談に関しては、就学前年度当初から相談予約を入れて対応しています。保護者や園児等との相談日は、保護者の希望日の中から決定しています。土日の相談業務の開催について、日曜日は、相談員の勤務条件や体制の整備等から、現段階では対応は難しいと思いますが、現状の相談待ちの状況を少しでも緩和できるよう土曜日の相談を受けられるような検討をしております。

上記の意見に関連し、令和元年度（2019年度）に実施している施策・事業

資料2

04-07 教育相談事業

→子どもの発達や就学、いじめや不登校など教育に関する相談を受け、児童生徒の健やかな成長を支援する。

※土日の相談体制の整備につきましては、現段階では対応が非常に難しい状況であり、今後も相談の実施につきましては、保護者と丁寧に打ち合わせをおこなってまいります。

5. ヘルプカードを活用した市民による体験談等を募集して掲載してみてもどうか。

★現時点での体験談の募集はない。関係機関を通じて体験談を聞き取り、リーフレットへの掲載や、サポーター研修の中で紹介する機会を設けるなど、今後も市民への理解啓発に努める。

上記の意見に関連し、令和元年度（2019年度）に実施している施策・事業

資料2

04-15 人権教育・啓発（周知・広報含む）に該当する施策・事業

→障がい者理解促進を図るため、平成25年度に発足した「障がい者サポーター制度」を推進し、各種講演会・ワークショップ等を開催するとともに、市職員向け研修会及び出前講座等を実施する。

6. ヘルプカードを病院に置くようにできないか。

★昨年ご提案いただいたヘルプカードの配置及び周知につきましては、県と合同で取り組む予定として協議を進めております。（実際に、ポスターなどを置いたり、数カ所にカード設置をおこなったりして徐々に進めているところ。）